

■ 世界王者は小学生 ■

大人に交じって、ひときわ背が低い一人の子どもがあどけない笑顔を見せた。先週12日、チェコ・プラハで行われた第42回世界オセロ選手権の表彰式、中央にいたチャンピオンは日本の小5福地啓介くん(11)だった。36年ぶりに最年少記録も更新した。「オセロ界の藤井聡太」と呼ぶ人もいるらしい。

オセロは、日本ではポピュラーなボードゲームだ。2人が交互に石を打ち合い、縦横斜めで相手の石を挟み自分の色に変え、最終的に石の多い方が勝つ。経験者は、よくわかるだろうが、8×8のボードの淵は挟みにくく、特に4角に打てれば、相手の色になることはないため、ここを取れば、かなり有利になる。

福地くんの決勝の相手は、元世界王者、タイのピヤナットさん(28)。1勝1分けで臨んだ第3戦の解説をTVで見た。終盤になって、福地くんが相手に角を取らせる場面がある。その後、劣勢で展開するが、最後に大逆転が起きる。解説が言うには、角を取らせた1手は福地くんの仕込んだ罠らしい。「私より先を読んでいた。落ち着きがあって集中力がすごい」。ピヤナットさんは、こう称えていた。

オセロを始めたのは、幼稚園の年長の時。母親に「頭を使うゲームをきなさい」と言われたからだ。「小学生グランプリ」で、小1、小2は優勝したが、小3、小4はできなかった。悔しくて、コンピュータを使って独学した。今年再び優勝。世界大会に臨んでいた。

帰国便での微笑ましいエピソードが、報じられている。離陸前の機内放送、機長の谷田邦彦さん(51)はアナウンスした。「オセロの世界チャンピオンにこの飛行機をご利用いただいております」「最年少優勝記録、11歳という快挙でございます」。新王者を祝福すると、機内は拍手に包まれたという。

さらに、「実を申しますと、以前の記録は私自身が1982年に打ち立てた15歳という記録。今回、大幅な更新でございます」と驚きの素性を披露した。オセロ日本選手団は例年、世界選手権に全日空便を利用して、全日空はその搭乗便に、最年少記録保持者でかつての世界王者である谷田さんを配置していた。

福地君にとって、うれしい計らいだったことだろう。このような大人の振る舞いが、子どもの真っ直ぐで清らかな心を育む。谷田さんも素敵だが、全日空も粋なことをする。

若い才能の開花を見るのは何とも愉快だ。たった5年間での小学生世界王者誕生とは。これからどれだけ強くなっていくか考えると、そらオセロしい。いや、そら恐ろしい。